

[成果情報名] 2006年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要約] 山形県において発生から3年目となったコイヘルペスウイルス病は、6～8月までの間に3件確認され、発生件数は前年の19%に減少した。発生期間は前年より2ヶ月短く、発生場所は業者、個人池、公園であった。

[部署] 山形県内水面水産試験場 生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス病、魚類防疫

---

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の経年的な発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004年6月4日に本県において初めてコイヘルペスウイルス病（以下 **KHVD**）が確認され、本年は初発から3年目となった。
2. **KHVD** の発生は6月30日から8月4日までの2ヶ月間みられ、計3件が確認された。いずれもニシキゴイであった。発生件数では前年（16件）の19%に減少した。これまでの発生件数を年別に見ると、2004年—69件、2005年—16件、2006年—3件となっている。
3. 発生は置賜地区2件、村山地区1件で置賜地区の2件については、先に発生した個人池のニシキゴイの購入先から業者が特定され、業者の購入先から新潟県の市場が特定された。村山地区の1件は感染魚が持ち込まれた可能性が高い。
4. 天然の湖沼河川や用水路では発生が見られず、感染耐過魚の増加やコイの持ち込み、持ち出しがないことが効果を上げているものと考えられる。

[成果の活用面・留意点]

発生件数は大幅に減少しているが、依然として感染源となりうる感染耐過魚は広く存在すると想定されるので、今後とも防疫対策を継続する必要がある。

[具体的なデータ]

表1 2006年の山形県における月別・発生場所別のKHVD発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	2005年	2004年
養殖・加工・釣り堀等業者		1					1	4	6
天然湖沼河川や用水路								1	16
公園や学校等の池や堀			1				1	1	6
個人池	1						1	10	41
計	1	1	1				3	16	69
2005年	3	6	4	1	2		16		
2004年	12	11	32	9	4	1	69		

注1 ; 2004年の69件は確定診断陽性件数67件に天然水域での1次診断陽性件数2件を加えた69件とした。

注2 ; 2005年の16件には再発の1件を含む。

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：平成18年度（平成15～19年）

研究担当者：松井俊二、高橋伸明、大川恵子

発表論文等：